



公益財団法人 愛知県文化振興事業団

2018年 12月 10日(月)
愛知県芸術劇場
(公益財団法人愛知県文化振興事業団)
広報・マーケティンググループ
☎ 052-955-5506

<Press Release>

報道各位



(C) hajime kato

OrganWorks

『聖獣～live with a sun～』

平素より愛知県芸術劇場の活動につきまして、ご理解・ご支援賜りありがとうございます。
さて、見出しのとおりプレスリリースを送付いたします。
ご多忙中恐縮ですが、ご一読の上、ご取材等いただければ幸いです。

お問合せ

愛知県芸術劇場(公益財団法人愛知県文化振興事業団)

広報・マーケティンググループ(武石) 企画制作グループ(唐津・加藤)

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2 ☎ 052-955-5506 Fax 052-971-5541

E-mail: mkt@aaf.or.jp <https://www-stage.aac.pref.aichi.jp/>

DANCE COMPANY

OrganWorks

2018-19 Comapany tour

聖獣

[live with a sun]

Choreograph by ShintaroHirahara

OrganWorks

〒102-0076 東京都千代田区五番町 5-6 ビラカーサ五番町 509

制作 重松悠希 070-1409-0478 (10:00~18:00)

作品担当 相場未江 080-5426-1897 (10:00~20:00)

作品コンセプト

OrganWorks は 2017 年に「聖獣 -live with a sun -」というタイトルで公演を行いました。

「live with a sun＝リ ヴァイアサン」

旧約聖書に現れる「リ ヴァイアサン」という怪物。

イギリスの哲学者トマス・ホッブズは同名の政治哲学書を著しており、その中で国民が集まってできた国家の姿を「リ ヴァイアサン」とであると形容しています。

更に、アメリカの作家ポール・オースターも同名の作品を書いており、その中には自由の女神に爆弾を仕掛ける男が出てくるなど、国家という概念を題材に物語が進行していきます。

「個人」というものとそれらが集合して形成される「国家」というものを掘り下げることが、来る 2020 年代という新しい年代に備える儀式になり得ると考えられますし、我々は今一度自分が立っている場所の確認をする為に怪物の姿を直視する必要があるのではないのでしょうか。

個人にはその人数分の記憶があり、その記憶の虫が集まり聖獣(国家)を形成する。

聖獣が陥る病はその虫一匹一匹に影響を及ぼし、その痛みが聖(成)獣の動きに影響を及ぼす。因果関係で結ばれる個人と国家。

ある聖獣が虫ではなく脳により動き出し、その事により虫が一匹一匹倒れてしまったら。

その時その衰弱し老衰したその目で何を見るのか。

聖獣。

ダイナミックな作品展開と詩に溢れた世界観

作中には平原によるオリジナルテキストが入りそれになぞらえたシーンが展開していきます。様々な昆虫をモチーフに、シーンがめまぐるしく変わります。それはまるで、人類史や、昆虫図鑑を次々とめくるような感じに似ています。

男女の出現から作品は始まりますが、そこから神話的な世界へと言葉と、身体表現と美術で観客を誘います。

身体性＝昆虫

昆虫に焦点を当て作品は進んでいきます。

これは巣を国家に見立て、超個体として存在する昆虫が国家を強固にしていく様を表現し、人間の行動と照らし合わせながら作品を進めていくのが狙いです。

個の集合体が国家でありそれが獣を形成し、繁栄し、衰退するという作品のダイナミズムを昆虫の動きを用いて創作し、逆説的に人間とは何かを問うような構造です。

個人が闘争を行う理由とは
果たして自己の生存の立証と繁殖に対する本能的な理由だけなのか。
その理念を持ってしまった人間というものは何なのだろうか。

ことわり
昆虫の理では、

自身を生存させるというアイデンティティは損なわれ、
繁殖と種の存続のみを目標として生命活動を行う。

人間は自身を人間として存在せしめて、更にその生きてきた記憶、
経験というものを DNA だけでなく生活様式や口伝などで伝えようとする。
意識せずに受け継がれてきた系譜がもたらす価値観と、
個人として生きてきた実績とが由来し闘争を生み出すのか。

国家を作り出す上での闘争とは。

そこで闘争を見つける為に身体と精神を昆虫化させる。
更にその後に身体と精神を人間化させる。

そこで初めて人間らしさの何が損なわれ、
何が昆虫と変わらなかったのかというのが理解できる。
そしてそこでようやく聖獣(国家)というものに手が届く、、、のか。
国家とも取れる獣らしき姿の共同体ができた時
その神話に存在した獣は
舞台上を蠢き
また別の世界へと旅立っていく

再演に際して

平原慎太郎

昨年公演した「聖獣」は私平原慎太郎にとって、また、我々OragnWorksにとってターニングポイントになった作品であることは間違いありません。

トヨタ コレオグラフィー アワードというバックアップを得て十分な環境で創られ練られた同作品は、例年以上に反響が多く、もう一度観たいとの多くの声を開催地のみならず地方各地から得ることができました。

単に再演＝作品の練り直しという意味合いだけでなく、所属ダンサーの成長を舞台に乗せられる機会であり、「人間」がダンスとどのように向かい合い、どのように社会に還元するかを示す機会の上に立っていると考えます。

多様化する「ダンス」そのものの形。その中であって、ダンサー、演出家、舞台芸術家のプロとして裏打ちされた実力の基に公演をする事。

私たちが見つめるのはその先であり、その為に今何を作るか。

これは「ダンス」の本質・王道をおさえながら、ラディカルな視線を持つというダイナミックな公演になると思います。

2014年からの国内外で目まぐるしく活動してきた我々OrganWorksの現時点での到達地点をお見せできる機会になればと思います。

また、2017年の創作のなかで、我々OrganWorksは育成（学生向けのWS、大学などの研究者との何か）の創造性・重要性を再発見した次第です。

プロトタイプ『聖獣記』を金沢21世紀美術館で発表しましたが、その時は小学生を中心とした多くの学生が観覧し、そのイメージの世界に没頭しました。彼らからのフィードバックも交えて『聖獣』という作品が成長した部分も大いにありました。

公演に至るまでを一緒に創り上げ観客も我々と同じく公演初日を迎えるような、そんなプログラムの実現も模索しています。

2017年公演実施概要

トヨタコレオグラフィーアワード2016 受賞者公演 『聖獣[live with a sun]』

日程：2017.10.12（Thu）～10.15（Sun） 会場：シアタートラム（東京・三軒茶屋）

料金：一般 4,000 円 24 歳以下 2,500 円 高校生以下 1,500 円

世田谷パブリックシアター友の会 3,700 円（前売のみ） せたがやアーツカード 3,800 円（前売のみ）

U24 2,300 円（前売のみ）

全席自由（入場整理番号付き）・税込 未就学児入場不可

主催：OrganWorks

提携：公益財団法人せたがや文化財団 世田谷パブリックシアター

協賛：トヨタ自動車株式会社

後援：世田谷区

作品製作協力：金沢21世紀美術館 [(公財)金沢芸術創造財団]

助成：公益財団法人セゾン文化財団、芸術文化振興基金

動員実績 : 5 ステージ 835 名

2018-2019 公演概要

OrganWorks

『聖獣／[live with a sun]』

平原慎太郎

柴一平／東海林靖志／佐藤琢哉／浜田純平／薬師寺綾／町田妙子／小松睦／高橋真帆／渡辺はるか

振付・演出／平原慎太郎

舞台監督／筒井昭善

照明／櫛田晃代

音響／原嶋紘平

衣装／西村友美子

音楽／David Lang、熊地勇太、景井雅之

作品制作協力：世田谷パブリックシアター

企画・制作／OrganWorks

※ツアーメンバー：出演者 10 名、スタッフ 4 名※

I. 公演決定

2019 年

1 月 12 日（土）、13 日（日） 愛知県芸術劇場 小ホール

1 月 16 日（水）、17 日（木） 広島・アステールプラザ 多目的スタジオ

7 月 札幌・コンカリーニョ

東京・世田谷パブリックシアター ほか

[お問合せ・連絡先] OrganWorks Tel: 070-1409-0478 (10:00~18:00)

Mail : info@theorganworks.com

WEB : www.theorganworks.com

twitter: @InfoOrgan

<OrganWorks について>

2013 年よりダンサー・振付家である平原慎太郎が主宰となり
西村友美子（衣装）、熊地勇太（音楽）らとともに、舞台作品の企画運営、振付け、
舞台衣装、映像、楽曲、広報デザインを制作する団体として活動を始める。
各々の個人的な活動を勢力的に行うメンバーが公演や企画毎に集合して作品を制作し、
個人の能力を発揮する為の団体という「器」に近い状態で存在している。

現在の構成員は平原慎太郎（作品演出、振付、ダンサー）、の他に
ダンサーとして東海林靖志、柴一平、佐藤琢哉、浜田純平
薬師寺綾、町田妙子、小松睦、渡辺はるか、大西彩瑛、村井玲美、
スタッフとして重松悠希、森嶋拓、が名を連ねる。

<OrganWorks の作品>

平原慎太郎本人がこれまでの全活動に於いて経験してきたあらゆる表現手段を用いて
テーマの時代性を捉え、そこに沿った作品を制作する事を意図としている。
新作のテーマなどからその都度、西村友美子が衣裳に於けるテーマ等のモチーフを探り、
作品の持つであろう世界感の枠組みの一端を提示。
内側と外側から作品の完成に向かい創作が始まる。

<平原慎太郎 プロフィール>

1981 年北海道生まれ。ダンサー、振付家。OrganWorks 主宰。
2004 年から 07 年まで「Noism」に所属。退団後フリーランスに転身。自身の活動や、大植真太郎らとの「C/Ompany」等のカンパニー活動の他、近藤良平主宰「コンドルズ」に参加、Carmen Werner との創作など国内外問わず広くダンス作品に関わっている。また前川知大主宰「イキウメ」、小林賢太郎、小林顕作、白井晃らの作品の振付、ステージングに参加、他にも塩田千春、播磨みどりとのコラボレーションなど、演劇、現代美術等他分野のアーティストとの交流も盛んに行う。雑誌「BRUTUS」の特集『つぎのひと。～ 明日を変える人物カタログ～』にパフォーミングアーツ部門で選出される。

2011 年 KIMDC 最優秀振付家賞受賞

2013 年 文化庁新進気鋭芸術家海外研修派遣にてスペインに 9 ヶ月研修

2015 年 小樽市文化奨励賞受賞

2016 年 トヨタコレオグラフィーアワードにて

「次代を担う振付家賞」「オーディエンス賞」をダブル受賞

2016 年 第 11 回日本ダンスフォーラム賞受賞